



## 乗り物うんちく

木々に緑が生い茂る季節になりました。この春、就職・転勤や進学した人も、5月にもなると窓から眺める風景もすっかり見慣れたころと思います。今月は、通勤・通学で利用する人が多い乗り物のうち鉄道と自動車についてみてみましょう。



表1は定期券の利用割合が最も高い駅と最も低い駅を運行会社別に示しています。まず、定期券利用割合が高い駅をみると、高校や大学などの教育機関が近接している駅が多く並んでいることがわかります。一方で、定期券利用割合が低い駅をみると、嵐山など観光名所に近い駅の名前が多く並んでいることがわかります。

表1 運行会社別乗車人員と定期券利用割合(平成24年度)

運行会社	定期利用割合が高い駅			定期利用割合が低い駅		
	駅名	乗車人員(千人)	うち定期利用(%)	駅名	乗車人員(千人)	うち定期利用(%)
西日本旅客鉄道	鍼灸大学前	138	(87.0)	保津峡	102	(34.3)
〃	同志社前	2,059	(85.6)	嵯峨嵐山	2,137	(43.4)
北近畿タンゴ鉄道*	大江高校前	100	(99.0)	天橋立	150	(4.0)
京阪電気鉄道*	深草	1,993	(58.5)	清水五条	1,235	(37.9)
阪急電鉄	西院	7,667	(52.5)	嵐山	1,259	(24.8)
近畿日本鉄道	興戸	2,216	(73.9)	東寺	1,145	(41.9)
京福電気鉄道	西大路三条	160	(34.4)	嵐山	549	(10.7)
叡山電鉄	出町柳	3,532	(60.4)	鞍馬	272	(0.7)
京都市高速鉄道	竹田	8,884	(63.2)	三条京阪	4,355	(15.2)
〃	西大路御池	1,832	(62.8)	京都駅	20,081	(32.5)

※：推計結果であることを示す。  
 注：乗車人員が100千人以上の駅に限定して算出した。  
 注：京都市高速鉄道の竹田駅は近畿日本鉄道連絡人員を含む。また、「定期」には敬老等その他を含む。

出典：平成24年京都府統計書（京都府調査統計課）

次に、自動車についてみます。表2は人口10人当たり自動車何台あるか（保有台数）の上下5位の市町村を示しています。まず、上位についてみると、自家用乗用車はいずれも府南部の町村です。一方で、軽自動車は北部の3市町が含まれています。次に下位をみると、自家用乗用車は伊根町と府南部の市町です。一方で、軽自動車では南部の市町のみとなっています。

表2 市町村別人口10人当たりの台数(平成24年度)

	自家用乗用車		軽自動車	
	人口10人当たりの台数		人口10人当たりの台数	
上位5市町村	南山城村	4.3	和束町	6.7
	久御山町	4.1	南山城村	5.1
	笠置町	3.7	京丹波町	5.0
	和束町	3.7	京丹后市	4.4
	宇治田原町	3.6	綾部市	4.2
下位5市町村	大山崎町	2.7	宇治市	1.5
	長岡京市	2.6	向日市	1.4
	向日市	2.5	大山崎町	1.3
	伊根町	2.5	京都市	1.2
	京都市	2.2	長岡京市	1.1

出典：平成24年京都府統計書（京都府調査統計課）  
 注：平成24年10月1日現在の推計人口（京都府調査統計課算出）を元に算出した。

ちょっと疲れた時には、いつもと違う道でプチ探検をしてみるのもいいかと思います。